

会 議 録

付属機関又は会議体の名称		教育に関する事務の点検・評価委員会(第1回)
事務局(担当課)		教育委員会事務局 教育総務部 教育総務課
開催日時		平成24年6月14日(木)午後4時～午後5時45分
開催場所		豊島区役所本庁舎4階 第一委員会室
出席者	委員	飯塚委員長、壺内委員(職務代理)、和田委員
	関係者	教育長、教育総務部長、学校運営課長、学校施設課長、教育指導課長、統括指導主事、教育センター所長
	事務局	教育総務課長、教育総務課庶務係長、教育総務課主事
公開の可否		公開・非公開・一部公開 傍聴人数 0人
非公開・一部公開の場合は、その理由		
会議次第		<p>【開会】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 職員挨拶 2. 委嘱状交付 3. 教育に関する事務の点検・評価実施概要説明 4. 委員長選出 5. 委員長挨拶及び委員自己紹介 <p>【議事】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会議の公開について 2. 平成23年度点検・評価後の取組状況について 3. 教育委員会事務局各課の事業概要について 4. 今年度の評価対象事業の設定について 5. 学校視察の実施について 6. 今後の日程の確認について

審議経過

開会挨拶（事務局）

1. 職員紹介
2. 委嘱状交付
3. 教育長挨拶
4. 教育に関する事務の点検・評価実施概要説明

＜教育総務課長 教育に関する事務の点検・評価実施概要説明＞

5. 委員長選出

事務局）

教育に関する事務の点検・評価委員会設置要綱（以下、「設置要綱」という。）第3条に基づきまして委員長を選出いたします。規定によりますと、委員長は委員の互選と定められています。委員の皆様、いかがいたしましょうか。

和田委員）

飯塚先生いかがでしょうか。

事務局）

それでは、飯塚委員様に委員長をお願いするというので、皆様よろしいでしょうか。

（委員全員異議なし）

事務局）

それでは、飯塚委員長、委員長の席にお移りいただき、議事の進行をよろしくお願ひ申し上げます。

飯塚委員長）

設置要綱の第3条の第5項の規定に基づきまして、あらかじめ委員長職務代理を決めさせていただきますと思います。壺内委員いかがでしょうか。

（委員全員異議なし）

飯塚委員長）

それでは、職務代理を壺内委員にお願ひしたいと思います。よろしくお願ひします。

【議事】

1. 会議の公開について

飯塚委員長）

それでは、教育総務課長説明をお願ひいたします。

教育総務課長）

「会議の公開について」、初めに資料1－4をご覧いただきたいと思ひます。設置要綱の第6条におきまして、委員会の会議を公開すると定めてござひます。続きまして、資料1－5をご覧いただきたいと思ひます。豊島区審議会等の会議の公開に関する要綱です。こちらの第3条でも審議会等の会議は原則として公開するという規定になってござひます。こうした規定に従ひ、本会議については公開とするものです。次に委員会の傍聴人数でござひ

いますが、教育委員会では4人と定めてございますので、本会議についても4人までと提案させていただきたいと思っております。また、会議録の作成でございますが、昨年度から委員名と要点をまとめて掲載することとなりました。今年度もそのように会議録を作成させていただきたいと考えております。会議録の閲覧については、教育委員会事務局、区のホームページならびに行政情報公開コーナーで行いたいと考えております。以上、ご提案させていただきます。

飯塚委員長)

ただ今のご提案ですが、すべて従来通りということですか。

教育総務課長)

その通りでございます。

飯塚委員長)

では、会議の公開、傍聴人、議事録、従来通りのやり方ということで、みなさんよろしいでしょうか。

(委員全員異議なし)

2. 平成23年度点検・評価後の取組状況について

飯塚委員長)

それでは、教育総務課長から説明をお願いいたします。

教育総務課長)

資料の1-6をご覧ください。平成23年度に実施いたしました外部評価後の取組状況の報告をさせていただきます。評価を受けての変更改善の取組、変更・改善が事業実施に与えた効果、今後の取組方針を記載しております。詳細につきましては、各担当の課長からご説明させていただきます。

<学校運営課 学校ICT環境整備、学校安全安心事業について説明>

飯塚委員長)

ただいま説明があった件について、ご意見ございますか。

教育指導課長)

少し補足させていただきたいです。機器の充実等については学校運営課で担っておりますが、教職員向けの研修等については教育指導課が担当しております。資料の効果の部分に研修の受講者満足度が100%になったと記載してあります。かなり顕著な結果がでておりますが、これは、ICTの推進や電子黒板を導入した際に、先生方からは戸惑いの声もありました。その中で、初心者向けの講習を実施し、授業でこうやって取り入れていただきたいと具体的に説明いたしました。以前は、実物投影機という大掛かりな機械を使って手元を映し出していましたが、ICTを導入したことによって手軽にできるようになりましたので、例えば、良いノート、悪いノートを映し出し比較することも、書写の書き方などを大きく効果的に映し出すことができると説明いたしました。先生たちもなるほどと感じていただけたようで、満足度の高い研修となりました。

和田委員)

学校安心・安全事業について、今後の取組方針の部分で「GIS地理情報システム上で、

交通事項などが発生した場所と現在の学童誘導員の配置を重ねてみるなどから学童誘導員の有効配置を検討していく」とありますが、学童誘導員の数にばらつきがあると感じます。統合した学校については、2校分の学童誘導員の方がいらっしゃいますし、人材を削るのが難しいのかもしれませんが、有効的な配置を考えていただきたいです。あの道に配置してほしいという保護者の声も聞きますので、そこを考慮し見直していただけるということですか。

学校運営課長)

現在の配置が有効的なものなのか検討していくために、交通事故の多い箇所と重ね見直していこうと考えております。また、配置のご要望も寄せられておりますので、データを検証しながら進めていきたいと考えております。今年度につきましては、2か所、追加配置することが決定しております。来年度に向けても、なるべく多くの要望が実現するよう取り組んでまいります。

壺内委員)

I C Tの活用の研修の受講者満足度が100%ということで、大変すばらしいと思います。この受講対象の先生は、一般教員の方ですか。

あと、他区から教員の移動があると思うのですが、今年度はどのように進めていくのですか。

I C T機器の利用は、主に、どの教科で利用されているのですか。

統括指導主事)

受講者についてですが、学校に主幹教諭が配置されている場合は、必ず出席していただいて、配置されていない場合は、学校のパソコンを管理されている職員や主幹教諭に準ずる者の出席をお願いしております。そして、2学期中に必ず45分以上、つまり1単位以上、各学校で研修を行うこととしています。校内研修の内容につきましては、研修会の内容に準じたものとし、報告書を提出していただいております。報告書の内容も、実施した日程はもちろんのこと、期間中に参加できなかった先生への対応等も記載していただき、100%の実施率となっております。

今年度も教員の入れ替わりはありますので、ほぼ同様の内容を実施します。今年度、異動で来た者を対象として、夏に丸一日の研修も予定しております。

利用率の高い教科ですが、小学校につきましては、教材の扱いやすさもあり、算数での利用率は高いです。また、大型テレビに実物を投影することは教科を問わず様々な活用がなされています。情報をたくさん扱う、社会科や理科でも利用率が高いです。小学校と中学校の利用の違いについては、中学校は一つの教材で多数のクラスの授業ができますので、パソコンを使った授業の利用が多いです。小学校の場合は、学級の担任が授業を行いますので、実物を投影するI C T機器の利用が多くなっております。

飯塚委員長)

ノートの取り方の良い例と悪い例の実物を投影するというお話がありましたが、指導したあとの効果を調査し、実例を挙げることをしないと活用が十分とは言えないと思います。その辺りの効果について、どうお考えですか。

教育指導課長)

ご指摘いただいた活用の仕方はとても大切だと考えております。昔の実物投影機と違う点は、導入した実物投影機にはカメラがついておりますので、以前撮影したものを記録することができるようになった点です。例えば、Aという児童の昔のノートの画像を記憶し、指導して一定期間たったノートと比較することもできます。大切なのは、集団で学習する中で、良い例を模範として示すことができることです。それが技術の発達によって手軽にできるようになり、さらに活用の幅も広がりました。その使い方については、改善していく余地がたくさんあると思います。

飯塚委員長)

ノートの取り方は、基礎学力を身につける上で、とても重要だと思います。ですので、効果の調査についても考えていただきたいと思います。

教材については、教育センターで研究されているのですか。

教育センター所長)

教材については、資料は教育センターで集めておりますが、その情報提供をすることにいたっておりませんので、今後努めてまいります。

飯塚委員長)

ぜひ、よろしくお願いいたします。

スクールガードについてですが、子どもを守る意識のある方とない方はわかります。自分が何のためにスクールガードをしているのかという、一人一人の意識がとても大切です。研修をするだけでなく、意識の改革を目的として取り組んでいってください。

和田委員)

スクールガードリーダーは、どういう方になるのですか。

学校運営課長)

P T Aの方が多いです。

和田委員)

各学校のP T Aで固定しているのですか。

学校運営課長)

各学校のP T Aの安全対策関係の方が養成講座にでて、各学校で伝達していただいています。

和田委員)

P T Aだけでなく、地域の方にも呼びかけをしているのですか。

学校運営課長)

町会の方や民生委員等、様々な団体がおりますので、その中でどういう方を選出するかという課題がございます。ですので、昨年についてはそのような取り組みをすることができませんでした。今年度、もう一度検討し、地域とのつながりという観点から、進めていきたいと考えております。

和田委員)

地域の目というのはとても大切です。A君は今朝元気がなかったとか、Bさんがいつも

遅刻している等、地域の方はみえています。そういう方は、意欲的に取り組んでいただけると思いますが、学校のためにもなると思います。呼びかけが不十分だと思うので、よろしくをお願いします。

学校運営課長)

そのように考えて、取り組んでいきたいと思えます。

飯塚委員長)

他によろしいですか。

(委員全員異議なし)

飯塚委員長)

では、次の説明をお願いします。

教育総務課長)

学校施設課の事業ですが、学校施設課長が遅れておりますので私の方から説明させていただきます。

<教育総務課長 安全・安心な学校づくり交付金対象事業について説明>

飯塚委員長)

ご質問、ご意見、ございますか。

和田委員)

今後10年間で整備するというので、改築の予定が20年、30年先だという学校については、早めに言っていただきたいです。学校を訪問すると、設備の格差をとて感じます。数十年前から、ほぼ変わらないトイレの学校もあれば、人が入ると自動的に電気がつく学校もあります。昨年の朝日小学校の視察でも、トイレが変わるだけで学校の全体の印象が変わったと感じましたので、よろしくをお願いします。

壺内委員)

現在、理科教育を重視しなければいけないと言われております。理科室は特別教室ですので、冷房は整備されていると思えますが、教育委員会を主体として、理科室の整備をさらに進めていかなくてはなりません。理科の先生が、一般教室を使って授業を行う場合が非常に多いので、指導していただきたいです。

教育指導課長)

特別教室の冷房化は、多くの学校で完了しております。その中で、理科教育の充実という観点では、特に実験をする事業について、自分自身がそういう授業を受けてこなかったという先生も多いので、学校によっては専科の先生が担当しております。本区に1名だけコアサイエンスティーチャーという都の指定を受けている理科の専門的な先生がおります。この先生の取組を他校に広げたり、区小研の理科部会の模範授業を見学させていただいたり、東京都でも新たに理科教育の事業を立ち上げているところもあります。本区についても、今後の重点であると考えております。

飯塚委員長)

各学校で理科室は1教室だけですか。

教育指導課長)

1 教室または2 教室です。

飯塚委員長)

それを十分活用していない学校が多いと思いますが、いかがでしょうか。

統括指導主事)

実験の映像を見せるという授業を行う先生も一部おります。ですが、本区の先生方で活動している理科の会での話を聞きますと、理科室の利用が重なってしまった場合は、安全な実験等は教室に道具を運び行うこともあるということです。富士見台小学校の理科室は、冷房化が完了しているのですが、そこで若手の教員に対して研修を行いました。快適な空間は、先生方も集中できるので理科室の冷房化は有効だと感じました。

コアサイエンスティーチャーの活用としては、理科の安全のための実技研修会を小学校と中学校で1 回ずつ計画しており、講師として理科の先生をご指導いただきます。

飯塚委員長)

ぜひお願いします。他によろしいですか。

(委員全員異議なし)

飯塚委員長)

では、教育センター所長をお願いします。

<教育センター所長 日本語初期指導事業経費について説明>

飯塚委員長)

ご質問、ご意見、ございますか。

教育指導課長)

教育指導課でもこの事業の生徒への指導の面で関係がありまして、教育センターにいる中国語が話せるスタッフとも協力し、学校生活の手引きという簡単なパンフレットを作成しました。日本語と中国語を両方で併記し、例えば、給食の意味等、生活文化の違いから実は理解していなかったことを記載しています。これが大変好評でして、現在は一番需要の多い中国語だけですが、今後多言語に展開していく可能性があると考えております。

飯塚委員長)

4 5名の協力者を、具体的にどのように活用しているのですか。

教育センター所長)

外国籍の子どもが転入してきた時等、各学校からの申請を受けて、その子供のニーズにあった方と連絡を取り派遣しております。小・中学校で午前中に学習の通訳をして手助けしていることが多いです。また、5 月は運動会の練習がありましたので、付き添いながら一連の流れを指導いたしました。これからはプールの授業も始まりますので、そういった場面でも側で指導していきます。

飯塚委員長)

まったく日本語のわからない子ども達がとても増えているという状況ですか。

教育センター所長)

多くはありません。昨年、原発の問題で帰国した方も多く、人数が減りまして、その子ども達が戻ってきているのかは確認しておりませんが、少しずつまた増えているといった

状況です。

教育指導課長)

外国から来る子どもの日本語の習得状況は様々です。少数ですが、まったく日本語が話せない子どももおりますし、日常的な会話はできる子どももおります。ですが、学習に関する言語が全く理解できない子どもが多いです。日本の文化や単語が当たり前用いられますので、その習得が非常に課題であると感じます。

飯塚委員長)

アメリカでは、他国からの転入がとても多いので、一般の教室とは別に、特別教室をつくり、基礎教育を徹底して指導するといった状況でした。課題は多いと思いますが、日本もそういう国になるべきであると感じます。いかがでしょうか。

三田教育長)

難しい問題だと感じます。多くの場合、仕事の関係からか、外国からの転入は特定の地域に集中する傾向にあります。そして、学校や教育センターで、子どもに日本語教育を行っても家庭やその地域では、母国語で生活されている子供も多いので日本語の定着が遅いのです。また、高学年の子どもほど定着が遅いとも感じます。この問題は二極化にもつながるので、その子にあった個別のプログラムを作る必要があると感じます。これは、国家的なプロジェクトで進めるとか、外国人学校をつくるというレベルの問題であると感じます。ただ、現在、需要の多い外国語に対して重点的に対応しており、一定の効果もできていると感じます。

先生も、学校にそういう子どもがいた場合に、積極的に言葉を学び対応していく姿勢が大切であると感じますし、将来的な意味で日本の学生にもっと外国の文化を学んでいただきたいと思います。

飯塚委員長)

日本の国際化が進まないことには、難しい問題ですね。これは大きな課題がありますので、地道な活動を続けていただきたいと思います。

三田教育長)

本区は小学校1年生から英語教育を行っておりますが、小学校の場合、担任の先生が英語も指導することとなっております。しかし、ALTもいるので、英語の授業をALT任せにしてしまい、先生自身の英語教育の力か身につかないということもあると思います。小学校の先生にも、積極的に英語教育の研修をしていかなければならないと感じます。

飯塚委員長)

英語を話せるだけで、英語を共通の言語としてコミュニケーションととることができる場合が多くあります。日本人は視野を広げていく必要があると感じますね。

他によろしいですか。

(委員全員異議なし)

飯塚委員長)

では、教育指導課長お願いします。

<教育指導課長 区立小・中学校英語教育推進事業経費について説明>

飯塚委員長)

委員の方々、いかがでしょうか。

和田委員)

小学校1年から英語教育を実施していることは素晴らしいと思います。中1ギャップの問題がありますが、区小研と区中研と一緒に問題の解決に取り組んでいるのも良いと思いました。若い先生は、子供たちとも年が近いですし、英語教育の普及に取り組んでいただきたいです。

飯塚委員長)

地域の意見として、和田委員、保護者の反応はいかがでしょうか。

和田委員)

小学校1年生で8時間の授業時間、6年生で32時間ということでかなり積極的な姿勢です。保護者の方も良いと感じている方が多いです。アジア系の先生から黒人の先生もいて、子どもたちが様々な外国の方と接することができるという点で、英語を学ぶ以外にも、異文化や接し方などを学んでいるようです。

壺内委員)

23区で小学校1年生から英語教育をしている区は他にあるのでしょうか。

教育指導課長)

中央区と豊島区だけです。

飯塚委員長)

6年生で32時間ということで、週1回ほどですね。この時間をうまく活用していくことが大切です。1回区切りの授業ではなく、宿題や次回につなげる授業が良いと思います。教材も歌を2つ、3つ取り上げるなどして取り組んでいくことが重要だと感じます。

教育指導課長)

今ご指摘いただいた内容を実施するには、週1時間ではやはり足りないのかなという気がしますが、現在は、指導体制と環境づくりの問題が重要であると考えております。

以前は、担任の先生もALTとどのように授業をつくりあげていくのか、わからないといった感じがしました。しかし、最近子ども達とALTをつなぐ役割として、時には子ども達の立場で一緒に取り組み、子ども達が戸惑っているときはALTの意図を察し、先生として行動することができるようになりました。ぜひ、機会がありあましたらご覧いただきたいです。

また、環境づくりという面では、小学校低学年の教室のいたるところに英語標記の紙を貼っている学校がありました。例えば、窓には「ウインドウ」と書いた紙を貼ったりして、常に生活をする環境の中に、英語に興味を持たせる取り組みがみられます。

これらの良い取り組みは、教育指導課から働きかけ、他校の模範となるように広めていこうと考えております。

飯塚委員長)

良い取り組みは、そのように広めていただきたいですが、1回区切りの授業ではなく、次の授業につなげるような工夫も取り入れていただけたら良いと思います。

他によろしいですか。

(委員全員異議なし)

飯塚委員長)

では、次の説明をお願いします。

<教育指導課長 キャリア教育（中学生の職場体験）について説明>

飯塚委員長)

何かございますか。

壺内委員)

国から5日間実施する案もでていましたが、新教育課程の完全実施ということで戸惑いも多いかと思います。8校中7校が3日間の実施で、私は、実際問題事業所との関係からそれ以上は難しいと感じます。ですので、事前と事後の指導の充実が大切になってくると思います。

和田委員)

中学生の職場体験の感想を読ませていただいたことがあるのですが、しっかりと書いてあって、いい経験をしたのだと感じました。日数の問題ですが、事業所の立場からすると4日間は難しいですね。

飯塚委員長)

やりたい仕事、好きな仕事があると、子どもも楽しくてもっと働きたいとなるので、もっと日数があっても良いと思うこともありますが、教育委員会としてもそんなに長く実施するのは難しいとも思いますし、トータルで考えると3日間が良いでしょうね。

三田教育長)

日数については、新教育課程の実施もありますし、教育委員会は校長先生の意見を応援したいと思います。本区は幸いにも、職場体験の受け入れが非常に増えております。法人会を中心として、職場体験のためのグループがありますし、事業者と校長先生が意見を交換する場もあります。そういう場面で、教育指導課が直接事業者の意見を聞き、教育課程の編制と地域の職場体験への期待を結びつけていくことが大切だと思います。

また、今後、小学校のキャリア教育の取り組みもしていかなければいけないと感じます。これから10年後、今の小学生たちがつく職業は、私たちが知らないような職業に就くことが多いのです。情報社会として様々なシステムが生まれ、それに合わせて職業も多様化していくことが予想されるので、知識を増やすことが自分の将来につながると考えることができるように、小学校から指導していく見通しも立てて取り組んでいただきたいです。

飯塚委員長)

現在、約3万種類もの職業があるのです。大学のキャリア教育の専門家は、少なくとも250から300種類の職業の細かい部分まで知らないと言います。そういう意味では、ただ体験学習だけ行うのではなく、社会が変わり新しい職業が生まれている中で、その新しい職業にも対応できる基礎づくりを小学校や中学校で行っていくことが非常に重要です。

統括指導主事)

昨年度はキャリア教育の研修会はなく、進路指導研修会ということで実施していましたが、今年度からは、キャリア教育の視点は欠かせないということでキャリア教育の研修と名前を改めて実施しております。小学校については、6年生の進路の視点、中学校についても職場体験と進路指導の視点を重視してしまいがちです。しかし、国が求めているキャリア教育は、能力を育てることが求められています。自己決定能力や情報活用能力、問題解決能力等をどう身につけることができるかということで、キャリア教育の研修会で見直しを図っております。そういった能力を育てることのできるキャリア教育の充実に向けて、取り組んでいきたいと考えております。

飯塚委員長)

他にありませんか。

(委員全員異議なし)

飯塚委員長)

では、最後になりますが、説明をお願いします。

<教育指導課長 教育人材育成経費について説明>

飯塚委員長)

I C Tの研修ということで、学校運営課のお話の内容と同じ部分もありますが、何かありますか。

和田委員)

現在、小・中学校連携の動きが多くみられますが、同じ学区域の連携だけではなく、さらに細分化し教科ごと、I C Tの活動ごとに連携するという取り組みはないのでしょうか。教育指導課長)

最終的な目標はそこです。例えば、算数の授業で効果的なI C Tの活用を行っていたら、それを中学校の数学の授業で展開していきます。しかし、今はまずI C T機器の習熟や抵抗感をなくすことに重点をおいて取り組んでおります。

飯塚委員長)

他にありますか。

(委員全員異議なし)

3. 教育委員会事務局各課の事業概要について

4. 今年度評価対象事業の設定について

飯塚委員長)

では、教育総務課長、説明をお願いします。

<教育総務課長 各課の事業概要説明>

教育総務課長)

それでは、資料1ー7をご覧ください。この中から評価していただく事業を選んでいただきたいと思います。本年度、私どもで評価をしていただいたらどうかという事業については資料1ー1に記載させていただきました。学校I C T機器の整備・充実、安全・安心な学校づくり事業の中からセーフスクールについて、学校図書館の整備・充実、小・中学校の改築、区独自の学力調査、教育相談機能の充実としてスクールソーシャルワーカーの

配置、教員の研修・人材育成の7事業です。それぞれの事業について、各課長から説明をお願いいたします。

＜学校運営課長 学校ICT環境整備・活用、学校図書館の整備・充実について説明＞

＜学校施設課長 小・中学校の改築について説明＞

＜教育指導課長 安全・安心な学校づくり事業（セーフスクール）、
区独自の学力調査について説明＞

＜教育センター所長 教育相談機能（SSWの配置）の充実について説明＞

飯塚委員長)

それでは、ただいまご説明がありました、今年度の外部評価案ということで何かご意見ございますか。

三田教育長)

先ほど、壺内委員から理科教育のお話がありました。理科教育の重要度を考えると、どこかで理科教育についても考えていきたいと思いました。例えば、区独自の学力調査や教員の研修・人材育成の部分などで理科教育についても視点をあてていただきたいと思います。

飯塚委員長)

現実には理科の教育が不得意な先生もいると思いますので、子ども達が楽しく授業ができるように、研修には力を入れていく必要があると思います。教育指導課長いかがでしょうか。

教育指導課長)

教員の研修・人材育成の部分では若手の教員の研修を含めた、研修体系全体という内容で考えていたのですが、理科の教育の研修について焦点化したいと思います。

飯塚委員長)

全て焦点化してしまう必要もないと思いますが、理科教育の説明を含めるということで検討していただきたいです。

他に何もなければ、今年度はこの7つの事業について、評価をしたいと思いますがいかがでしょうか。

(委員全員異議なし)

4. 学校視察について

飯塚委員長)

それでは、説明をお願いいたします。

＜教育総務課長 資料説明＞

飯塚委員長)

それでは、次回は学校視察ということで、よろしいでしょうか。

(委員全員異議なし)

5. 今後の日程の確認について

＜事務局 日程の確認＞

飯塚委員長)

それでは、第3回、第4回につきましては、7月13日、7月19日に審議をするというところでよろしく願いいたします。以上で第一回の審議は終わります。ありがとうございました。

・提出された資料

- 資料No. 1-01 教育に関する事務の点検・評価の実施について
- 資料No. 1-02 教育に関する事務の点検・評価委員会委員名簿
- 資料No. 1-03 教育に関する事務の点検・評価実施要綱
- 資料No. 1-04 教育に関する事務の点検・評価委員会設置要綱
- 資料No. 1-05 豊島区審議会等の会議の公開に関する要綱
- 資料No. 1-06 23年度点検・評価委員会の取組状況について
- 資料No. 1-07 24年度教育委員会事務局各課の目標と事務事業について
- 資料No. 1-08 学校視察の実施について
- 資料No. 1-09 豊島区未来戦略推進プラン2012（平成24年3月 豊島区）
- 資料No. 1-10 豊島区の教育2011（平成23年9月 豊島区教育委員会）
- 資料No. 1-11 豊島区教育ビジョン2010（平成22年3月 豊島区教育委員会）